

卒業式式辞

本日京都薬科大学を卒業される 341 名の学部の皆さんならびに大学院を修了される 11 名の皆さん、ご卒業ならびに修了誠におめでとうございます。またご父母、ご関係の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。学部の皆さんは 6 年間の学びで薬学の理（ことわり）を学び、自らの手を動かし心と体で薬学という学問を体得されました。大学院の皆さんは、学部で経験した研究をさらに自身のアイデアで深め、新たな学術の進展に寄与する研究を学位論文としてまとめられました。皆さんのこれまでの努力にあらためて敬意を表し、お祝いの言葉を述べさせていただきます。

科学技術が飛躍的に進歩した 21 世紀においても、治療法がない疾患や感染症はまだ多く残されています。様々な種類のがん疾患もそうですが、新型コロナに見られるような新たな感染症の出現やすでに終息したと考えられていた感染症の再出現も見られます。アルツハイマー病をはじめとする脳疾患や神経疾患も根治法がないのが現状です。薬の専門家とされる薬剤師は、このような現実をしっかり把握し何ができるかを自ら考え行動しなければなりません。皆さんには、病気あるいは病気になる可能性のある人を広く対象とする様々な役割が期待されています。病院あるいは薬局の臨床現場で、患者さんが必要とする薬の効果と限界をきちんと患者さんに理解していただき、服用管理や症状・副作用モニターを行う役割が求められています。一方で、新しい薬のアイデアやシーズを探り、治療薬に結びつける役割も社会に対する重要な貢献です。また、新しい薬の有効性を臨床的かつ学術的に検証することも任務の一つです。

京都薬科大学における 6 年間の学びは、このような多様な薬剤師の役割を果たすための基礎を作るためのものです。国家試験に合格し薬剤師として様々な形で社会への貢献を始めると同時に、卒業後も新たな学術的知見に対応できる必要十分な能力を自己研鑽で維持しなければなりません。大学院修了生の皆さんは、学位研究を通して獲得された能力を学術的に昇華させ、広く世界に通用する人材となってください。

一方で、大学時代は自己の内面に向き合い自分でも気付かなかった新しい側面を見つけるのに最適の時期であったと思います。クラブ活動やボランティア活動あるいは海外での活動などで得られた成果をもとに、今まで縁のなかった社会の様々なジャンルでの活動にもトライしてください。その際、一つ心にとめておいていただきたいことがあります。大学や大学院では非常に整理され洗練された形の学びが系統的に準備されており、皆さんはその内容を習得することで課題解決能力を身につけられました。しかし、現実の課題は往々にして単純なものではありません。関係する要因が増えるだけではなく、関わる人たちの思

惑も関連して一筋縄では解けない課題が出てきます。約 2 千 5 百年前の中国の人である孫子は、その著書の中で物事を両面から考える重要性を説いています。“理について害を思い、害について理を思うから仕事が成功する”というのです。これからの社会生活で遭遇する課題に向き合う際に、一直線ではない柔軟な思考を心がけてください。

我が国の人口構成の変化と AI 技術の飛躍的進歩に伴い、医療界も大きく変貌しつつあります。皆さんが大学に入学された際には予想もつかなかったデジタル化時代に即した新しいスキルとハートを持った薬剤師、ヒトと病気に向き合う薬剤師、チーム医療で薬の専門家として認められる薬剤師、が求められています。このような次世代の薬剤師を目指し卒業後も研鑽を続けてください。次の時代は皆さんがリーダーシップをとる時代になります。皆さんの輝かしい未来を祈念して私の式辞とします。

令和 5 年 3 月 18 日
京都薬科大学 学長 赤路健一